

## 2019年度 手書き実技 第1問(文字起こし)

みなさん、こんにちは。今日は言語聴覚士の仕事について、お話をさせていただきたいと思います。

言語聴覚士についてですが、聞こえや言葉のリハビリ、もしくはハビリテーションを担当する専門職として、日本では1999年に国家資格となりました。言葉話すには声を出すだけではなく、どのような言葉をどのような意味を持って伝えるのかという、とても複雑な脳で考えるということが必要で、また相手が何と言っているのかなあと聞くことも、補聴器や人工内耳を付けるだけではなく、聞き取って理解をするという、これもまた脳が考える働きが必要です。単に言葉だけではなく、話す、そして聞くという機能に対して、専門的にリハビリテーションをしていきます。これが言語聴覚士です。

Speech-Language & Hearing Therapist (スピーチ ランゲージ アンド ヒアリング セラピスト) の Hearing (ヒアリング) について、お話しします。ヒアリングというのは、聞くという意味です。つまり、聴覚障害、難聴のある方に対するリハビリテーションもまた言語聴覚士の重要な専門分野の一つです。聞こえにくいことに対して、聴覚障害ということばをよく使いますが、今回は言語聴覚士についての仕事についてお話をさせていただくので、障害という言葉が含まれてしまっていますが、一つの病気の状態を説明するという意味を込めて、聴覚障害とさせていただきます。聴覚障害といっても、

様々な原因があります。例えば、何歳ごろに難聴になったんだろうか。そして、そのあと、補聴器をつけたり、人工内耳をつけたりして、どのように療育、育つためのハビリテーションですね。どのような療育や、そして学校での教育を受けてきたか、ということによって、言葉の聞き取りや理解の力は違ってきます。手話を一緒に使うと、言葉だけよりもよくわかるというお子さんもいます。このように聞こえの状態と言葉の発達の状態は、とても深く関係しているので、言語聴覚士はまず聞こえにくいお子さんに会った場合には、最初にそのお子さんの聴力を検査しながら、必要ならば医師と相談しながら聞こえを補って、補うというのは聞こえにくいところを何か別の方法で補っていくということです。

そして聞く力を育てるためのハビリテーションをおこなっていきます。聞こえを補うためには、まず最初に補聴器を使うことが多いです。その補聴器の調整や補聴器をつけた状態でどのくらい聞こえているのかということを確認する検査も言語聴覚士がやります。お子さんが補聴器をつけて音や言葉を聞くことを楽しめるように、お父さんやお母さんの声がよく聞こえるように、その中でお話をすると楽しいなという気持ちが育っていくように、そのようなことを願いながらお子さんのハビリテーションをしていきます。

また、少し大きくなったお子さんには、言葉の聞こえ方だけではなく、どのくらい言葉を離したり、聞いてわかったりする力が育っているんだろうか。ということ定期的に、1年に1回くらい、お誕生日ごとに、のように検査をしながら、お子さんに必要な力がちゃんと伸ばせているかどうか確認しながら、次のハビリテーションを行っていきます。